

北九州 ESD アクションプラン 2015～2019

次期アクションプラン

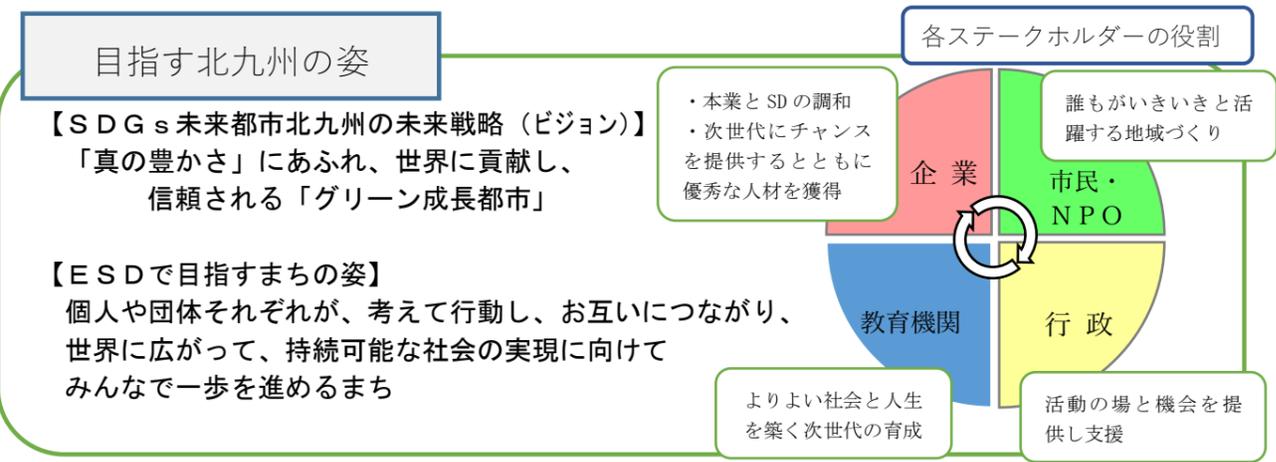
<p>北九州 ESD の将来のビジョン</p> <p>～「環境・社会・経済のバランスの取れた、公正で持続可能なまち」の実現を目指して～</p> <p>「自分を変え、まちを変え、未来を変えていく、北九州 ESD」</p> <p>【北九州方式 ESD】</p> <p>『環境』を出発点に ESD を広め、『市民主体』で持続可能な ESD を目指す</p> <p>①市民一人ひとりが ②自主的に ③協働で</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域への ESD 普及活動を地道に継続 ・ ESD 活動の見える化が進んだ ・韓国との相互交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ESD と SDGs の関係性を理解し、一緒に広げていく ・ 周知方法・周知内容の改善
<p>■地域・ネットワークづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民センター等を中心に、活動団体を広げ、ESD 的視点を浸透 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域拠点づくりの強化 ・ 地域での次世代育成
<p>■多様な教育の場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 複数の大学と会員が連携して学ぶ体制 ・ 国際的な発表の機会の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育機関の連携強化 ・ ユースと、教育機関や他ステークホルダーとの連携・協働
<p>■企業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SDGs 研修実施による人材育成 ・ 北九州 SDGs 未来都市アワードで優良事例発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業と他ステークホルダーのつながりの構築 ・ ユースの就職や起業につながる活躍の機会の提供
<p>■行政機関</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 行政職員や市民センター館長等の ESD・SDGs 研修 ・ 北九州 SDGs 未来都市アワードを創設 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協議会が行政職員の人材育成にどのように関わるか検討が必要
<p>■推進体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 運営委員会の発足、5つのプロジェクトを推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民や会員の主体的な活動を促進 ・ 会員間のネットワークづくり ・ プロジェクトなど新たな枠組み検討 ・ 持続可能な拠点のあり方検討

<世界・日本の状況変化>

2015年 国連サミットで SDGs が採択される

2018年 北九州市が SDGs 未来都市に認定される

2019年 国連総会で ESD for 2030 採択、「ESD は全ての SDGs の成功の鍵として、SDGs 達成の不可欠な実施手段である」ことを明記



北九州 ESD 協議会 次期アクションプランの方向性

ウィズコロナの時代にあって新たなチャレンジにも取り組みながら、人と人、人と社会の関わりの中で学びあう ESD を推進し、SDGs の達成を目指し活動する。特に、将来の北九州を担う次世代の育成や、SDGs 活動の活発化が予想される企業との連携に取り組む。

- これまでの「北九州方式 ESD」を継続
- SD（持続可能な社会づくり）の理解や周知と、SDGs 17 の目標を意識した取り組み
- 自立し、かつ相互につながる学びの環の広がり
- 誰一人取り残さない学び、誰もが活躍しやすい環境づくり

■期間 2021年度～2025年度

■プランの柱

- 活動団体による自主的な取り組みの促進
 - ・ 普及啓発
 - ・ 地域・ネットワークづくり
 - ・ 国際交流
 - ・ 調査研究
 - ・ 他
- ステークホルダー同士の連携・地域外との交流
 - ・ ステークホルダー間や他の ESD 拠点、国連大学との交流促進
 - ・ 活動のマッチング
- 次世代の育成
 - ・ 子どもたちの体験学習
 - ・ 異なる世代や企業など、他ステークホルダーとユースの連携
- 協議会の推進体制と活動拠点のあり方

■主な取り組み

■成果指標：年度別ロードマップ